第 170 回誘電・絶縁材料技術委員会議事録（案）
日時：12 月 25 日　13：30~17:00
場所：電気学会　第 3, 4 会議室

出席者（順不同、敬称略）
委員長：岡本（電中研）
委員：木下（東芝小山委員代理）、廣瀬（住友電工磯島委員代理）、山之内（日新電機）、山野（千葉大）、後藤（コンサルタント）
幹事：内田（中部電力）、宮下（三菱電線）
幹事補：岡下（昭和電線）、西川（芝工大）
オブザーバ：金子氏（新潟大）

資料
番号なし 第 169 回誘電・絶縁材料技術委員会議事録（案）
170-1　誘電・絶縁材料技術委員会委員名簿
170-2　第 58 回 A 部門研究調査運営委員会議事録
170-3　第 9 回プリント配線板の絶縁劣化および耐サージ性調査専門委員会議事録
170-4　第７回ポリマーがいし材料表面の放電特性評価と劣化現象調査専門委員会
170-5-1~3 第 4~6 回ナノコンポジット委員会議事録
170-6　誘電・絶縁材料技術委員会　調査専門委員会フォローシート（2003.12.25 現在）
170-7　環境対応材料の電気機器への応用調査専門委員会設置趣意書（案）
170-8　新調査専門委員会の設置について
170-9　H16 電気学会全国大会シンポジウム案提案（新機能性ナノ誘電体の開発現状と応用展開）
170-10　平成 15 年度誘電・絶縁材料研究会、技術委員会、その他行事予定案（第 6 次案）
170-11　平成 16 年度誘電・絶縁材料研究会、技術委員会、その他行事予定案（第 2 次案）
170-12　国際会議（ICMEP-ACEID2003）報告
170-13　第 35 回電気電子絶縁材料シンポジウムプログラム（案）
170-14　ISEIM2005 ウェブサイト案
170-15　ISEIM2005 開催提案書
170-16　2004 年度家田賞および矢作賞受賞者について
170-17　「誘電・絶縁材料技術委員会表彰」規定および「誘電・絶縁材料技術委員会表彰受賞案選定」規定細目改訂の改訂について
170-18　3 月研究会について（テーマ：国際会議報告・高分子がいし・電荷挙動と界面）

１．議事録について

西川幹事補が読み上げ、一部訂正の後承認された。

２．資料 170－1
技術委員会名簿である。

３．資料 170－2
委員長より第 58 回 A 部門研究調査運営委員会議事録について報告がなされた。
・調査専門委員会新設：機器診断の経済性評価（穂積委員長）は次回に再提出、情報通信のための誘電絶縁材料（福永委員長）は条件付で承認された。
・ISEIM2005 開催が承認され、役員会にて正式承認される予定である。
・優秀論文発表賞候補者の推薦は、役員会長尾幹事までとなっており（締め切り H16.1.15）、幹事団に一任された。今後、来年 1 月以降の研究会のために推薦フォーマットを整備する。

４．資料 170－7
環境対応材料の電気機器への応用調査専門委員会設置趣意書（鈴置委員長）である。内田幹事が代読し、審議した。内外趨勢が長い、前委員会で明らかになった点、今後の検討課題を明確にすべき、フォーマットがあっていない、字句の訂正などの指摘があり、鈴置委員に対応していただくこととした。

５．資料 170－8
金子氏（新潟大）より、平成 16 年度設置予定の新調査専門委員会（ナノ構造制御有機薄膜および複合膜の機能化とデバイス応用調査専門委員会）設置について説明があった。前調査専門委員会（有機薄膜・分子超薄膜及び有機・無機複合膜の機能化）の報告書案を作成中であり、新規委員会の活動内容については、関連する「柔構造を持つ有機電気・電子材料のナノテクノロジーへの展開」（岩本委員長）との調整を行う、などの説明があった。次回技術委員会（2 月中旬予定）までに設置趣意書を提出いただき、2004 年 3 月 3 日の運営委員会に諮ることとした。

６．資料 170－9
後藤委員より H16 電気学会全国大会シンポジウム提案（新機能性ナノ誘電体の開発現状と応用展開）について説明がなされた。

７．資料 170-3
山野委員より、第 9 回プリント配線板の絶縁劣化および耐サージ性調査専門委員会議事録について説明がなされた。現場向けのイオンマイグレーション関連の単行本作成、共同実験の実施状況などについて報告があった。調査専門委員会による成果の出版については、

電気学会から出版する場合、技術委員会で提案する必要がある。また、A 部門大会のセッション依頼に対しても検討していただくこととした。

８．資料 170-4
第７回ポリマーがいし材料表面の放電特性評価と劣化現象調査専門委員会議事録である。

９．資料 170-5-1,2,3
第 4～6 回ナノコンポジット委員会議事録である。

１０．資料 170-6
宮下幹事より調査専門委員会フォローシートについて説明がなされた。

１１．資料 170－7
H15 行事予定である。見学会については、2 月に東大生産研および講演会（フラクタル：合原和幸氏、委員長が打診）を予定し、同時に技術委員会を開催することとした。

１２．資料 170－8
H16 行事予定であり、宮下幹事より説明がなされた。
・インバータサージ絶縁について、場所は名古屋が候補地だが、担当委員は未定。
・若手セミナーは、学生対象にシンポジウムと合わせて開催し、若手セッションを作るなどの案が示された。これに対して、委員より、「若手」でなく「技術」セミナーとしてはどうか、若手交流を目的として大学研究室によるパネル展示と懇親会（B 部門を参考に）開催などの意見も出た。

１３．資料 170－12
内田幹事より ICMEP-ACEID2003 における国際諮問会議の決定・提案事項について報告がなされた。
・今後の日本での ACEID 開催は 2009 年 ISEIM との共催とする
・ICDM（2006 年韓国での開催より IEMEP と ACEID が統合され ICDM となる）を将来的には ISEIM（IEEE）とひとつにまとめられないかとの打診あり。
・国際諮問委員会への日本からの委員の推薦依頼。
これらは今後検討してゆくこととし、たたき台を作って議論する。その他、技術委員会に対する ICDM への正式な対応の依頼についても対応することとした。

１４．資料 170-13
宮下幹事より、第 35 回シンポジウム開催プログラムについて説明がなされた。

・各セッションへの基調講演の導入、ポスター全数展示、obligation time を設ける、通信関連およびアセットマネージメントを入れる、の案が示された。
→・基調講演は、応募状況を見て、各セッションでの基調講演の有無を決める。
　・ポスター全数展示に関しては、適当な教室があるかどうかを検討する。
・招待講演者として、海外からは Dr. Frehette、九州大学高原先生などが候補。
・開催日は 11 月 17,18 日を予定（3 月末確定）している旨の報告があった。
その他、講師を招いてのパネルディスカッション、アンケートによるセッションを募集など検討している。プログラムについてアンケートの実施し、3 月の会告締め切り（学会誌５月号の会告）にあわせて、さらに詳細を検討することとした。

１５．資料 170-14,15
ISEIM2005 ホームページ案である。委員長より、開催提案（最終案）が承認されたとの報告があり、今後活動を開始する。実行委員会には穂積氏および福永氏を入れる。

１６．資料 170-16
内田幹事より、家田賞および矢作賞の両候補者より承諾を得て決定したとの報告があった。来年夏までに、受賞通知と講演依頼をする。犬石賞は、来年夏頃までに候補者を決定することとした。

１７．資料 170-17
内田幹事より「誘電・絶縁材料技術委員会表彰受賞案選定」規定細目改訂案について説明がなされた。
・すでに引退されている受賞者への旅費の支給を必要に応じて行うこと。
・推薦有効期間は IEEE にならい、3 年間とすること。
・受賞者の人数について、「原則として」を削除して、1 名、1 グループに限定する。
などが承認された。受賞の回数に関しては、「原則として」があるので、「各賞一回限り」との変更はしない。修正案を次回提出することとした。

１８．資料 170－18
宮下幹事、3 月研究会「国際会議報告・高分子がいし・電荷挙動と界面」における発表者の依頼について報告がなされた。

１９．次回委員会開催について
日時：2 月。場所：東大生産研を予定。

（以上）